

'96.7.26

# ヘルス&クリニック



田中 恵里子  
●整形外科主任  
(50歳)

岐阜薬科大学卒後、東邦大学医学部卒。AKAを完全に習得した数少ない整形外科医の一人。日本整形外科学会認定医。同学会認定リウマチ専門医。東京都豊島区南池袋3・8・3 池袋クランハイツ102、☎ 03・3866・7889 (要予約)

**Q 慢性の腰痛で苦しんでいます。**

**Q なにか治療法はないものでしょうか?**

学生時代にアルバイトで腰を痛めてから、20年間も腰痛に苦しめられています。痛みがひどい時は、一日中横にな

つていています。いくつつかの病院で診てもらいましたが、良くなりません。(製薬会社勤務、41才、千葉県)

**A 腰痛の8割は仙腸関節の機能異常が原因だから、異常を取り去れ!**

従来の整形外科の治療で

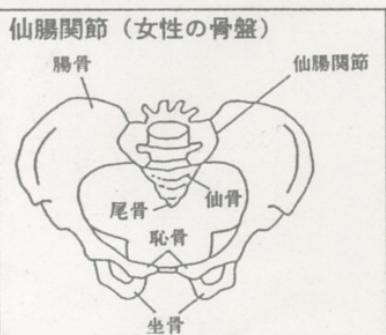
AKA (Arthro Kinematic Approach) = 関節運動学的アプローチ療法の概念とは「首、肩、腰などの人体の関節の機能が異常を起こし、それが原因となって、その関節とは遠く離れたいろいろな部位にまで痛みが起こる(関連痛)」というものです。

長く、整形外科医として働きながら、私はこの事実に悩み続けました。そして幸運にもぶち当たったのが、AKA療法なのです。

「滑り」「回転」「回旋」が滑りにくいです。関節機能異常とは、関節の

腰痛にはAKA療法がよい!

さて腰痛についてですが、ひとくちに腰痛といつても、



仙腸関節 (女性の骨盤)  
仙腸関節  
仙骨  
尾骨  
恥骨  
坐骨

これらの関節のなかでも、体の各部に痛みを起こすのが、人体の中心部にあたる腰部にある仙腸関節の機能異常です。とくに、その人の使いすぎているところとか、昔、ケガをした部位などの弱点に関連痛が起こります。

関連機能異常と、それによる関連痛という視点から見ないかぎり、整形外科的な痛みの問題の多くは解決できません。整形外科的な痛みや症状の約8割は、関節の機能異常が原因で発生しており、AKA療法で機能異常を取り去ることで、痛みは解消します。

機能異常を起こしやすい関節は、仙腸関節、第一肋椎関節、頸椎椎間関節、胸椎椎間関節、胸肋関節、胸鎖関節などで、比較的動きの少ない関節に起こります。

しかし、腰痛の大半は、レントゲン撮影やMRIなどの検査で異常がないのに、痛みが起こっています。いわゆる「腰痛症」で、原因が特定できないから、こういう曖昧な病名がつけられているのです。また逆に、画像診断で脊椎の変化などが発見されても、必ずしも、それが痛みの原因になっているとは限りません。

AKA療法で仙腸関節の機能異常を正すと、約8割は痛みが解消し、治るのです。AKA療法が反応しない場合、つまり仙腸関節の機能異常が原因でない場合には、他に原因があることも確認できるといふメリットもあるのです。ですから、まずAKA療法を受け、それに反応しない場合に初めて従来の整形外科の検査を行なうと、どんな腰痛であってもほぼ正しい診断がなされ、適切な治療を受けることができるわけです。そうすれば、あやしげな民間療法にかかるてさらに症状が悪化するというおそれもなくなります。

腰痛で悩んでいる人には、ぜひAKA療法を受けてみようおすすめします。次週は、AKAの理論にもとづく「腰痛の予防法」を中心に取り上げます。